市長と語ろう！元気づくりトーク

市長が、市民と直接、意見交換することで住民参加型行政を推進しようと昨年8月から12月まで市内全域の21カ所で「市長と語ろう！元気づくりトーク」を開催しました。

2、122人の皆さんの参加があり、今後の市政運営に参考となる様々な意見を聞くことができました。

今回は、各会場での発言や意見など、主な案件に対する市長の回答をご紹介します。

千丁（8月18日・千丁公民館）

Q：加賀島地区の開発について、以前はレジャー用途と聞いていたが、最近、工業用地との話もあるようだ。現況をお聞きしたい。

A：加賀島地区は、国・県の事業で行われており、現在、埋立てがほぼ完了したところ。土地利用については工業用地と緑地の整備が予定され、今後も県と協議しながら港湾関係企業の誘致に努めていく。

Q：大鞘川関連事業の進捗状況を教えてほしい。

A：事業は県の農政及び土木部局の共同で行われており、農政部門では、現在二カ所の排水機場が完成し、今後は新牟田地区の整備を進めていく。土木部門の河川改修事業としては、18年度に3億円程度の予算が組まれており、着実に進展している。今後も、国や県に対し事業の更なる推進を求めていきたい。

Q：固定資産税率は、合併協議で数年後に1.6％となる予定であるが、現在の状況に応じて時期などを見直す予定はないか。

A：税収が厳しい中で、前倒しして1.6％にすべきだとの声もあるが、合併時の取り決めを尊重したいと考えている。

泉（8月21日・振興センターいずみ）

Q：農業は厳しい。離農対策の一環として、企業誘致を進めてほしい。

A：18年4月に企業誘致課を新設して精力的に取り組んでいる。企業誘致が現実的なものとなるよう、まずは工業団地の整備を進めていく。

Q：泉町への観光客は松橋方面からのルートが多い状況であるが、今後、新八代駅や八代インターからのルート整備を進めてほしい。

A：八代方面からの交通アクセスの整備を進めるとともに、八代の魅力を内外にPRしながら、旅行会社などにも八代観光ルートの働きかけを図っていきたい。

Q：平成20年に「全国お茶祭り」が熊本県で行われ、約1万人が参加する。宿泊など、その対応を事前に準備しておいてはどうか。また、地産地消を進めて欲しい。

A：お茶は重要な基幹作物であるので、「お茶祭り」には適切な対応を図りたい。また、都市へのPRも進めながら、地産地消も促進していく。

Q：行政の目の届かない部分を埋めるのが住民自治組織であり、合併で市域が広がり自治組織の役割はさらに重要となる。財政的な支援もお願いしたい。

A：環境、防災、福祉など、これから住民との協働は不可欠である。必要と思われる財政的支援については、十分に検討させていただく。

Q：山間地の教育について、行政が積極的に取り組んでほしい。

A：行政が一方的に決めるのではなく、地元の人たちがどのような考えを持っておられるのか、皆さんの意見を踏まえて進めていかなければならない。近いうちに意見交換の場を設けたい。

鏡（8月22日・鏡農村改善センター）

Q：県の高校再編計画では氷川高は八代南高に統合される方針である。存続に向けた活動を行っているので、市も協力してほしい。

A：知事や県教育長にも計画の見直しをお願いしている。今後も存続に向けて取り組んでいきたい。

Q：前年度の金婚夫婦表彰は、数も多く、合併前と比べ簡単なものであった。思い出に残るような式典にしてほしい。

A：金婚式は新聞社の主催で自治体ごとに行われ、合併後は八代市として1箇所で行われた。ご意見を受け、より良い式典となるよう伝達方法などを検討したい。

Q：地域審議会の状況と新市建設計画における事業計画などを伺いたい。

A：審議会は、住民によるまちづくりを目指して、環境、福祉、防災など細やかな審議が行われている。事業については、合併時の新市建設計画に基づき、18年度は71億円の予算を確保し、適宜、各種事業に取り組んでいる。

Q：いぐさ農家の状況はとても厳しい。対策を急いでほしい。

A：現状は十分理解しており、農林水産省にも対応を強く求めているところ。価格安定制度の充実や経営合理化など、今後の対策に鋭意取り組んでいく。

東陽（8月24日・東陽定住センター）

Q：生姜は最近価格にも恵まれているが、排水や病気などに新たな対策が求められている。行政の協力をお願いしたい。

A：排水に課題があれば、現地を調査し対策を検討していかなければならない。病気対策については、臭化メチルに代わる薬剤が待たれるが、県などとも協議を進めていきたい。

Q：少子化対策として、親にかかる負担を減らせば子どもが増えるのでは。

A：第三子の保育料無料化は、現制度では三子とも在園していなければ該当しないので、これらの条件を緩和して、より使いやすい制度にしたいと考えている。医療についても、就学前までは、一部負担はあるが、ほぼ無料化となっている。

Q：東陽町にはスーパーがないので不便を感じている。菜摘館に魚などの主菜となるものを置いて活用できないか。

A：スーパーがなくなりお困りだと思う。菜摘館の仕入れの種類やメニューを工夫してはどうかと考えている。また、鮎などの特産品も販売できるよう検討していきたい。

Q：東陽町から龍峯山への登山ルートがあるが荒れている。健康づくりの面からも整備して活用したらどうか。

A：大変良いアイディアだと思う。調査して検討させてもらいたい。

郡築（8月25日・郡築公民館）

Q：農業が厳しい状況にあることを、市はどのように考えているか。

A：私も同じく大変厳しいと感じている。い草に代わる作物が課題だと思うが、農家の皆さんにも、支援事業などを活用して他の作物や経営合理化などを検討いただきたいと思う。市も支援していく。

Q：各校区でつくられている子ども安全パトロール隊の情報交換の場を設けてほしい。

A：安全パトロール隊は、現在、40数団体、4千人以上の人が登録されており、パトロール用ベストを支給するなど市も支援を行っている。情報交換の場は必要だと思うので、今後設けるようにしたい。

Q：農地・水・環境保全対策事業について、新聞では市の負担が8千万円とあったが、申請されたものは全件認めてもらえないか。

A：他の農業関連事業にも予算を要するので、現在の市の財政規模では、年間8千万円の支出は困難だと思われる。現在の申請分で2千万円だが、十分協議していきたいと思うので、ご理解をいただきたい。

Q：海岸の堤防沿いのゴミが近年増えている。市の対策をお聞きしたい。

A：以前はごみ監視員制度があったが、現在は、市で悪質な場所など定期的に保健所や警察と合同でパトロールを行っている。監視することがごみ対策には有効だと思う。最近、環境自治会に環境パトロールをお願いしたので、今後も、地元の皆さんと一緒になって啓発に努めていきたい。

昭和（8月29日・農村婦人の家）

Q：水無川堤防のかさ上げと漏水箇所の補修をお願いしたい。

A：水無川を管理する県の現地調査などは、すでに行われている。住民の皆さんにとっては不安だと思うので、県にも速やかに対応してもらうよう強く要望していく。校区の現地調査には、私も立ち会いたい。

Q：農村婦人の家は、雨漏りやカビなどがひどい。補修をお願いしたい。

A：今年度に雨漏りの補修を行う予定なので、これに合わせて、出来る限りの対応はしたいと考えている。

Q：昭和校区にも、住民情報端末などを設置してほしい。

A：情報端末については、2校区が未設置の状況である。他の校区と同様な情報提供が受けられるよう、パソコンを設置させていただきたいと思う。

Q：共働き世帯のために、昭和小学校で学童保育ができないか。

A：学童保育は市が運営するのではなく、地域の総社教や保育園が行っているものである。10人以上の希望があれば補助事業の対象となるので、地域の要望と実情に応じて対応したい。

続きは、3月1日号以降でご紹介していきます。